

## 藤沢市総合教育会議 議事録

会議名	令和元年度第2回 総合教育会議
開催日	2020年(令和2年)1月15日(水) 13:30~14:58
場 所	本庁舎3階 会議室3-3
出席者	(市側) 鈴木市長 (教育委員会) 平岩教育長、大津委員、飯島委員、木原委員、市村委員 (講師) 末吉里花氏 (関係職員) 教育次長、教育部長、教育総務課長、同課主幹、教育指導課長、同課主幹

### 【議事録】

#### 事務局(司会)

- ・ただいまから「令和元年度第2回総合教育会議」を開催いたします。
- ・この会議を開会する前に、皆様には携帯電話・スマホの電源をお切りになるか、マナーモードの設定をお願いいたします。
- ・また、傍聴の皆様で、録音、録画、写真撮影を行いたい方がおりましたら挙手をお願いします。(なし)
- ・なお、会議の記録のために、事務局で録音と写真撮影をさせていただきます。写真撮影は、傍聴者の顔は写らないように配慮いたしますので、よろしくお願いいたします。
- ・また、2019年10月1日付で市村杏奈委員が教育委員に就任されておりますので、一言、ごあいさつをお願いします。

#### 市村委員

- ・昨年の10月1日より教育委員に就任しました市村です。保護者の立場ということでお引き受けいたしました。これから視野を広めて、さまざまな事柄に取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## 事務局（司会）

- ・続いて、総合教育開催に当たり、本会議の目的について改めて確認をさせていただきます。この会議の目的は、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、本市の教育の課題やあるべき姿を共有し、次代を担うすべての子どもたちを市全体で見守り、育む取組を共有する場であります。
- ・次に、「本日のテーマ」ですが、「私たちの選択が未来を変える～子どもたちのためのSDGsとエシカル消費～」を予定しております。講師には一般社団法人エシカル協会代表理事の末吉里花様に起こしいただいております。先生のご紹介は後ほどさせていただきます。
- ・それでは、開会に当たり、総合教育会議の座長であります鈴木市長に一言ごあいさつをお願いいたします。

## 鈴木市長

- ・皆さん、こんにちは。本日はご多用のところご出席を賜り、誠にありがとうございます。本日は、第2回総合教育会議ですが、1回目の会議からの間にもいろいろなことがありまして、1点は本市在住の吉野 彰さんがノーベル化学賞を受賞されました。1月30日に名誉市民の顕彰式を行い、同時に講演をしていただくことになっております。講演会の申し込みの状況も大変好調のようです。吉野先生は、リチウムイオン電池の開発者と同時に地球温暖化に尽力されている方ですので、いろいろご意見を伺いながら進めていければと思います。
- ・また、市内では子どもさん方がいろいろな分野で頑張っております。特にスポーツの分野では、暮れに全国高校駅伝に藤沢翔陵高校が出場し、正月2日には日大藤沢高校がサッカーで全国選手権に出場するなど、我々市でも活躍を大変楽しませていただいておりますし、この調子でオリンピック・パラリンピックに向かっていければと思っていますところでは。
- ・そして1月13日には成人式がございました。今年は4,322の方が新成人を迎えられました。昨年より94名増えております。私も式場であいさつをさせていただきましたが、大変静かに聞いていただいて、成功裏に終了することができました。
- ・さて、これから夏に向かってオリンピック・パラリンピックが開催されます。本市では2回目のセーリング競技の会場となりますが、それに向けて、市民参加のさまざまなイベントが目白押しになってきます。そういった中で、地球温暖化等世界的な視野を持つことをこういったことを契機に皆さんと共有していただければと思います。本日は、「私たちの選択が未来を変える～子どもたちのためのSDGsとエシカル消費」をテーマに、講師として本市にあります慶應義塾大学総合政策学部のご出身で、エシカル協会代表理

事の末吉里花様からご講演をいただけることは、大変タイムリーなことであると思っておりますので、よろしくお願いたします。その後に意見交換をさせていただきたいと思っております。

## 事務局（司会）

- ・次に、本日の関係職員等をご紹介します。（職員自己紹介）
- ・次に、本日使用します資料の確認をいたします。（資料の確認）

## 事務局（司会）

- ・ここからは座長であります鈴木市長に会の進行をお願いいたします。

## 鈴木市長

- ・それでは、次第に沿い、議事を進行いたします。
- ・次第3 議事録署名人の決定について、事務局の説明をお願いします。

## 事務局

- ・今回の議事録署名人は、鈴木市長と飯島委員をお願いしたいと思います。

## 鈴木市長

- ・議事録署名人については私と飯島委員ということですが、よろしいですか。  
（「異議なし」の声あり）
- ・それでは、議事録署名人は私と飯島委員となります。

## 鈴木市長

- ・次に、議事に入ります。事務局から説明をお願いします。

## 事務局

- ・昨年8月開催の第1回総合教育会議では、「子どもたちの学びについて」ということで、SDGsの17の目標である「貧困をなくそう、質の高い教育をみんなに」という視点から、2018年8月に実施しました「藤沢市子どもと子育て家庭の生活実態調査」における現状・課題を踏まえ意見交換を行っております。近年、持続可能な社会の実現のために国をはじめ、企業や教育機関、市民の方など、さまざまな箇所でもSDGsに関する取り組みが広がってきております。今後は各分野の政策を進めていく上においてもSDGs

の視点は大変重要になっております。

- ・これまで学校においても持続可能な開発のための教育、いわゆるE S Dとか総合的な学習の時間を通じてさまざまな課題に向き合う授業づくりを行っております。また、国の新学習指導要領においては、その前文に「持続可能な社会の創り手」を育てるという理念を明確化していることもありまして、本市においても「第3期藤沢市教育振興基本計画」策定に当たりましては、国の「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」の考え方を取り入れているところです。
- ・一方、神奈川県が令和元年7月に実施しました「県民ニーズ調査」によりますと、SDGsの認知度は20%を切るなど、一般的な認知度はまだまだ低い状況にあります。また、一般の方の暮らしのレベルに浸透していないということも課題の1つとして捉えているところです。SDGsの推進のためにはSDGs自体を理解することに加え、具体的な行動につなげることが重要と考えておりますが、特に実践する際に具体的に何をしたらよいのかわかりにくいというような課題もあります。
- ・そこで、本日は、SDGsと親和性の高い「人や社会、環境に配慮した消費行動」いわゆるエシカル消費に関する取り組みに日々取り組んでいらっしゃる末吉様に、本日のテーマであります「私たちの選択が未来を変える～子どもたちのためのSDGsとエシカル消費～」について、現在の状況、自治体の取り組み、学校現場の事例等を踏まえご講演をいただきたいと思っております。また、先生には講演後に意見交換に加わっていただけることになっておりますので、よろしくお願いいたします。
- ・それでは、改めまして本日の講師を務めていただきます末吉様のご紹介をさせていただきます。末吉様は、地元の慶應義塾大学総合政策学部をご卒業後、TBS系番組「世界ふしぎ発見！」のミステリーハンターとして、世界各地を旅した経験をお持ちです。現在は、一般社団法人エシカル協会の代表理事として、人や地球環境、社会、地域に配慮した生産と消費を実現する社会の構築に向けまして、日本全国の企業や自治体、教育機関など多方面にわたりエシカル消費の普及を目指し、ご活躍されております。また、エシカル協会代表理事のほか、日本ユネスコ国内委員会広報大使、消費者庁「倫理的消費」調査研究会委員、東京都消費生活対策審議会委員などの経歴をお持ちです。主な著書に「祈る子どもたち」、「はじめてのエシカル」、絵本「じゅんぴはいいかい？名もなきこざるとエシカルな冒険」など、多数執筆をされております。
- ・それでは、末吉様、よろしくお願いいたします。

## 講師

- ・皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきましたエシカル協会代表をしております末吉里花と申します。きょうは貴重な場にお招きいただきまして、本当にありがとう

ございます。鈴木市長、平岩教育長をはじめ関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

- ・今日は、私からは、子どもたちに向けてどのようにSDGsを自分の事として捉えて、暮らしの中でエシカルな考えを持って行動して行ってほしいと、そういう思いをいつも活動の中で伝えてきておりますので、私が活動の中でどんなことを伝えて、今の実際の日本におけるエシカル消費の動向、あるいは子どもたちがエシカル消費に向けてどういうことに取り組んでいるのか、そういったことをお話できたらと思っています。(プロジェクト使用・資料参照)
- ・私のプロフィールはお手元にあると思いますので、ここについては特に触れませんが、今、私は、「日本ユネスコ国内委員会広報大使」という役割も担って、全国のユネスコスクールに加盟している小学校、中学校、高校を訪ねて、その中でもエシカル消費の重要性を伝えてきております。
- ・そもそも「エシカル」という言葉について聞き慣れない方が多くいらっしゃいます。この中の方々に「エシカル」という言葉を聞いたことがありますという方、手を挙げていただけますか。これは毎回聞くのですが、なかなか手が挙がらないことが多い。「エシカル」を直訳すると、「倫理的な」という意味になりますけれども、今、私たちが活動している「エシカル」という意味は、「人や社会・地球環境・地域に思いやりのある考え方や行動のこと」を指します。実は「エシカル」とか「エシカル消費」という言葉は、イギリスから始まって、2010年ぐらいに日本に入ってきたと言われている言葉ですので、非常に新しいのですが、私たち日本人が古くから大切にしてきた「お互いさま、思いやり、もったいない、おてんとうさまが見ている」とか、そういった精神はまさにエシカルであるということで、私たち日本人はこのエシカルを日本がリードして、世界もリードできるような存在であると私自身思っています。
- ・今、「エシカル」は「倫理的な」という意味で申し上げましたが、「倫理的な」なので形容詞です。本来は「エシカル」の後に名詞が来なくてはいけないのですがけれども、私たち団体としては、「エシカル消費」ということに着目して普及活動を行っています。なぜなら「消費」というのは、今の時代においては世界中の人々が毎日行っている行動です。日々の暮らしの中でこの「エシカル」という考えを意識して行動してもらうことで、世界が抱えているいろいろな問題、気候危機、人権問題、貧困問題、生物多様性の問題などと、いろいろな問題を解決する力の一端を誰もが今日から明日から担うことができる、これがエシカル消費の最大の魅力であり、また、どんな人にとっても最も身近な社会貢献がエシカル消費であると言えます。
- ・冒頭に、エシカル協会はどんな活動をしているのかを少しだけご紹介しますと、我々の団体は2015年11月11日に立ち上がりましたので、SDGsが採択された年に立ち上げたわけですがけれども、当時、私たちは余り仕事がありませんでしたが、この4年で状況

がガラリと変わりました。潮目が変わったというぐらいに大きく時代が変わったなというのをはっきりと肌で感じることができます。それは我々協会に対しての問い合わせの数、種類、間合わせしてくださる方々を見ても違いがわかります。今、最も私たちの団体に問い合わせが多いのが自治体と教育現場の皆様です。

- ・私たちの団体は、こういう使命・ミッションを持って活動しているわけですが、エシカルの本質について考えて行動するだけではなく、変化を起こしていくような人々を育てていくという気持ちで今、活動をしています。主な活動の軸としては、講演活動を全国各地で開催していて、去年1年間を通して直接お話を届けられたのが2万5,000人ぐらいの方々です。あとは講演だけではなく我々主催の講座も開いておりまして、これは私が団体を立ち上げる前から始めていたもので、今年で10年目になる講座ですけれども、ここで「コンシェルジュ」という資格を取っていただいた方々が全国各地に1,300人いて、それぞれの地域でそれぞれの立場で、エシカル消費、エシカルの考えを普及してくださっている方々です。
- ・また、私たちはそういったコンシェルジュと企業の皆様と突き合わせてみて、消費者、生活者はこういったものを企業に求めているというような声を直接企業の皆様へ届けられるような交流の場、対話の場というのも開いています。あとは学生たちと協働でやるのが非常に多い。例えばこれは「エシカル・ファッションショー」です。エシカルな分野の中でファッションというのは1つの大きな分野ですけれども、あらゆるブランドが今、エシカルファッションとして売り出されています。要は人とか環境をキズつけないでつくられた洋服です。そういったブランド価値の洋服を集めて、ファッションショーを大学生と一緒に企画しました。これは「エシカル・フェスタ」といってお祭りのような場ですけれども、2018年度は東京の聖心女子大学のキャンパスをお借りして、聖心の大学生だけでなく、他の大学生や高校生たちと一緒にこのような機会や場面をつくりつけてきております。
- ・この中で少し私のパーソナルストーリーも見ていただきたいのですが、そもそも私はこの活動をやり始めて15年くらいたっているのですが、それまでは本当にひどい生活をしてきました。今、皆様の前でこうやって話すのが申しわけないぐらい、振り返るのも怖いような、つまり自分だけがよければいいという生活をしてきました。そんな私が少しずつ変わっていく大きなきっかけとなったことを皆様にお話させてください。
- ・これは「世界ふしぎ発見」という番組です。ご覧になった方いらっしゃいますか。ほとんどの方が手を挙げてくださいます。ありがとうございます。随分前から「笑点」に次ぐ長寿番組と言われているぐらいのクイズ番組ですけれども、この中で世界を旅してクイズを出すミステリーハンターという役があります。私はこのミステリーハンターを10年以上続けてきて、今はやっていないのですが、そのおかげで、自分のプライベート

トも含めて世界 78 ヶ国ぐらい旅をさせてもらいました。その多くは秘境と呼ばれるところ  
です。今、もう一回行けと言われてもなかなか行けないような世界の果てといったと  
ころまで行かせてもらいました。その中で私は自分なりにある 1 つのことが見えてきま  
した。それは何かというと、この世界というのは一握りの利益や権力のために美しい自  
然、あるいは弱い立場の人たちが犠牲になっている構造であるということです。これは  
大人であればだれでも頭では理解できていると思うけれども、実際にそういった国々を  
訪ねる中で、地球の温暖化の影響を目の当たりにし、弱い立場の人たちと対話をするこ  
とで世界というのは、本当にこういう構造なんだと感じて、胸が痛みました。

- ・私のターニングポイントになったのは、アフリカのタンザニアという国で、この写真の  
ゾウの後ろにそびえ立っている大きな山は、アフリカ最高峰のキリマンジャロです。  
6,000 メートルあります。何と私はこのキリマンジャロに登頂しました。高尾山しか登  
ったことがなかった私がなぜ登ったかということ、実は頂上に氷河が横たわっているの  
です。私が登ったのは 2004 年ですが、2010 年から 20 年の間に地球の温暖化でその氷河  
が完全に溶けてしまうだろうという科学者たちの発表がありましたので、どのくらい溶  
けているのか見に行こうという取材で上まで登ったのです。登り始めて 1,900 メートル  
地点のところ暮らしす子どもたちが通う小学校があったので、訪ねました。そうしたら  
なんと小さな、小さな子どもたちが 1 本、1 本木を植えていたのです、しかも祈りながら。  
何と祈っていたか。「どうか、再びキリマンジャロの頂上の氷河が大きくなりますように」  
と、真剣に祈りを込めながら木を植えていたのです。彼らは氷河が溶けていることを知  
っていました。その氷河の雪解け水の一部が彼らの生活用水になるので、なくなってし  
まうということは死活問題です。
- ・僕たち、私たちは「あんな高い山に登れないから、代わりにお姉ちゃん、行って見てき  
て」と背中を押されて、上まで登った写真がこちらです。本来は私の真後ろまで氷河が  
頂上で覆われていたそうです。残されていた氷河はほんの 1 割か 2 割程度だったのです。  
私はこれを目の当たりにして、ものすごくショックで、結局、回り回って地球は 1 つ、  
私たちのような暮らしから出た影響が、こういったところに何か悪いことを及ぼしてい  
るのかもしれないと思ったら、いても立ってもいられなくなって、私は頂上で決心しま  
した。これからは自分のライフワークとして、こういったことをみんなに伝えるだけ  
ではなくて、解決に導くような活動を初めていきたいと。そういうわけで今エシカル  
の活動をしているわけですが、環境問題というと、ものすごく幅が広くて、結局、私  
もごみ拾いとか、いろいろなことで環境 NGO 団体と一緒に、キリマンジャロから戻っ  
てきてからさまざまなことをしました。
- ・けれども、これって意味があるのだろうか、と、すごくモヤモヤした時期がありました。  
そんなときに出会ったのがこの方です。彼女はイギリス人で 1990 年に来日したときに、

日本では「オーガニック」とか「フェアトレード」というような商品がほとんど手に入らないと。手に入らないのであれば、自分でそういうブランドをつくってしまおうと言って、東京でお店をオープンした方です。彼女の名前はサフィア・ミニーさんといって、立ち上げたブランドは「ピープルツリー」というブランドで、このブランドは今では日本で最大のフェアトレードのセレクトショップに発展しました。ということで、私はこのときからフェアトレードに非常に関心を持ち、そこから自分なりに行動して行って、その後、エシカル、エシカル消費という考えが日本にイギリスから入ってきた。これはフェアトレードやオーガニックも含めもっともっと幅の広い消費のあり方を示しているものなので、私はそちらに専門を移して、そこから団体を立ち上げて、今に至っているというわけです。

- ・話が少し長くなりましたが、ここからエシカルの話に入っていきます。そもそも何でエシカルという考えが必要なのか。そこを考えていくには、その背景を考えていかなければいけません。今の時代、お金を出せばある程度のモノが手に入りますし、私たちは毎日何にも考えずにエネルギーを受けているわけです。そのモノとかエネルギーの背景には必ず誰かがいるわけです。そのモノを手にとったとしても、そのモノは誰がどこでどうやってつくっているのかがわかるものはどのくらい世の中にありますか。
- ・今日、皆さんがお召しになっている洋服は、誰がどこでどうやってつくっているのか、わかる方いらっしゃいますか。これはよく子どもたちに授業の中で聞きます。みんながきょう履いている靴は毎日履いている靴でしょう。それを誰がどこでどうやってつくっているのか、考えてみたことありますか。これはなかなか難しいです。農作物であれば、藤沢市の何々さんがつくったとわかるものが多いけれども、ほとんどのものはわからない。企業もそれをあえて商品に書かないし、ホームページに至ってもその背景がわからないものが多い。100年、150年前とは違うわけなので、私たち生活者、消費者とモノの間には厚い見えない壁があって、私たちはこの壁を乗り越えてまで裏側を見ることができないわけです。その見ることができないというのが非常に危険で問題があるというふうに私たちはとらえています。なぜなら、この背景では私たちが知らない間にいろいろな問題が起きていったからです。ものづくりから環境に負荷が及んで、こういった写真のような気候危機という今一番の深刻な問題を招いたり、あるいはモノというのは必ず誰かの手によってつくられているので、つくっている人たちが苦しい思いをしている場合もある。それは大人だけでなく、子どもも働かされているという児童労働の問題もありますし、こういった大きな問題が絡み合っ、貧困問題がずっとなくなるという問題、そしてこの地球には我々人間だけが生きているわけではない。そういった生物多様性が失われつつあるような問題が起きているということです。
- ・こういった問題というのは、私たちが問題としてとらえない限り問題になりません。重



要なことはまず自分の身の周り、地域、日本、世界でどんな問題が起きているのだろうかを知ること、知ろうとすることが大事ですので、私たちのエシカルの活動というのは、消費者とモノの間にある、見えない厚い壁を取り除くような活動をしているというふうに思っています。

- ・ここで少しだけ、問題の中でなかなか日本ではニュースにならないものをお話いたしますと、「気候危機」というのは、毎日、ニュースでも見るぐらいの話になってきています。ただ、「人権侵害」、特に「児童労働」というのは、私たち日本人と関係がない話ではなく、ものすごく大きなつながりがあり、密接な関わりがあるというふうに思っていたきたいと思います。これは私が実際に撮った児童労働の写真です。インドで働かされている子どもたちですけれども、彼らは小さな部屋で窓もないところに、1日16時間働かされていました。両親と一緒に暮らしていません。何をつくっているのかというと、でき上がると美しい雑貨やアクセサリーです。完成品は先進国に輸出するというふうに話していました。このような子どもたちは今、この瞬間にもいるわけです。世界では今、児童労働は1億5,200万人、約10人に1人の子どもが働かされているということです。これはお父さんとかお母さんの仕事の手伝いをするという話ではないのです。
- ・密接な関わりが私たち日本人とあると言ったのは、私たちが普段、よく消費をするものをつくられている現場には子どもたちの姿があるからです。例えば左上はチョコレートの原料となるカカオ豆ですけれども、西アフリカの農園では、このように多くの子どもたちが危険な作業を強いられています。ここで働いている子どもたちは当然チョコレートの味は知りませんので、甘いチョコレートの裏は甘くないということです。
- ・右上はコットン畑です。コットン畑というのは、アメリカのような大国でもつくられています。多くは途上国の小規模農家さんたちがつくっていて、このような子どもたちの姿がある。そのコットンを栽培する中で、農薬を使用するのですが当然子どもたちは吸い込んで、大人と子どもを合わせて、ものすごい数のコットン農家さんが亡くなっています。1年間に2万人から4万人が農薬の被害で亡くなっています。
- ・左下はコーヒー農園です。右下はサッカーボールです。サッカーボールはパキスタンで7割がつくられていますけれども、その多くは子どもたちが苦しい思いをしてこのようにつくっています。この話を小学生たちにすると、ぱっと表情が変わります。「僕たちはいつもサッカーをして楽しく遊んでいる。そのサッカーボールのすぐ後ろには、こんな苦しい思いをしている子どもがいるなんて。大人はどうしてこれを知っていて、解決しようとしませんか。」と聞かれます。当然の疑問だと思います。こういうようなことが起きています。
- ・あとは洋服の話になってしまいますけれども、この写真をご覧になったことがある方いらっしゃるでしょうか。これは2013年4月24日にバングラディッシュのダッカという都市で

起きた大きな縫製工場が崩壊した事故の様子です。3,000人以上働いていた従業員が、崩れ落ちたビルの下敷きになって1,100人以上が亡くなりました。ここで何が主につくられていたかという、若者に絶大な人気のファストファッションのブランド、あるいはどんな人も知っている世界的に有名な洋服のブランドをこの工場で作っていたので、私たち日本人とこの事故というのは、関係がないわけではないということです。もしかしたら私たち日本人もこういったような劣悪な環境で作られた洋服を着ているかもしれないということです。

- ・このようなことが世界ではものすごくニュースになって、この日、私がニュースを調べた限り、日本では当日にこのニュースは流れませんでした。今、学生たちがこの事故を受けてつくられたドキュメンタリー映画を学校の中で自主上映して、みんなで話し合う時間を設けたりするような、そういったようなことが起きています。若い人たちの間で非常に今、注目されている映画ですけれども、もし、皆様、ご興味があればご覧いただきたいと思います。既にDVDになっています。
- ・今、冒頭にちょっと説明したいろいろな問題が起きているわけです。そういった問題を解決する1つの有効な手段が「エシカル消費」ということになります。ここにエシカル消費の定義を書きましたが、「地域の活性化、雇用なども含む人・社会・地球環境に配慮した消費やサービスのこと」を言います。私はもう1つつけ足しました。それは、「モノの過去、現在、未来を考えて消費をすること」です。
- ・どういうことかという、「過去」というのは、誰がどこでどうやってつくっているのか、対面性を持ってわかるものをなるべく購入していこう。
- ・「現在」というのは、モノを持ってしまった以上、修理をしながら大切に長く使い続けようということです。もったいないという気持ちとつながる話ですけれども、エシカルなもの、人や環境に配慮されたものだからといって大量につくって、大量に消費し、大量に捨てては元も子もないので大切に使い続ける。これは非常に重要な観点だと思います。
- ・「未来」というのは、これから買うもの、持っているものが、自分が必要としなくなったときにどうなるのか想像することです。ただのゴミになるのか、それとも誰かに譲ることができるのか、リユースできるのか、アップサイクルできるのか、リサイクルできるのか、そういったことまで考えて消費をしようということです。
- ・これは非常にハードルが高いかもしれませんが、モノの一生を考えるとということ、とても重要なことであると思います。つまり簡単に言うと、「エシカル消費」というのはストーリーとか物語のあるもので、モノの背景がわかり、さらに顔の見える消費であるということになります。
- ・エシカル消費はいろいろな消費のスタイルがあるので、ここはほんの一例ですけれども、

どんなスタイルがあるのか、皆様にお伝えします。「エシカル消費」という大きな傘の中にいろいろな消費のスタイルがあります。ここに挙げたのはほんの一例で、皆様が考えつく他の消費のスタイルもあるかもしれませんが、これを見ていただくと、自分の生活でもやっている、地域でもやっている、学校でもやっている、企業でもやっている、そういうことがあるかもしれません。

- ・私は「環境への配慮」、「社会への配慮」、「地域への配慮」と3つに分類しましたがけれども、例えば今注目されているプラスチック問題、プラスチックに代わるものを使っていくということもエシカル消費に入ります。フェアトレードも当然そうですし、「地域への配慮」というところが皆様にとって一番身近なことだし、子どもたちも取り組みやすいことかもしれません。地域でつくられたものは地域で消費していく。グルグルと経済が、モノが回っていくということです。
- ・それから「伝統工芸」というのも実はエシカル消費に入ります。今、職人たちの技術が次の世代に伝わらなくなってきたということも起きてきていますけれども、改めて伝統の技術や工芸品を見直そうというような動きがエシカル消費の中でも出てきております。エシカル消費はやったことあったかなという考える人も、こうやってかみ砕いて見ていただくと、「やったことある、ある」というふうになる方も多いのではないかと思います。
- ・それでは、「エコ」と「エシカル」はどう違うのかといったときに、エコというと100%、日本人は知っています。始まったのは70年代ですごく古いけれども、その動機も環境保護とか公害撲滅というものもあり、そのスタイルも運動論的なものが非常に強かったと思いますが、今言われているエシカル消費というのは、環境への配慮だけ別ではなくて人権のことも入ってくる、社会のことも入ってくるということなので多岐にわたりますし、既にこれはSDGsも含めての話ですけれども、ビジネスの中に乗っかってきている話になっています。運動論ではない。もう既にビジネスの中、あるいは教育の中でも伝えていかれているものになってきていて、今、世界的に見れば、エシカル消費を一番指示している層は若い人たちです。ジェネレーションゼット、ミレニアル世代と呼ばれている人たちが多いので、そういったこともあって、おしゃれなイメージであったりとか、トレンドもそれを率いていくような動きに世界的に見るとなっています。
- ・「エシカル消費」というのは、私たち消費者それぞれが、自分にとって最も関心の高い社会的な課題の中からどんなエシカル消費ができるかを考えていって、実践してもらうことであると思います。皆様、一人ひとりにとって関心の高い社会的な課題は違います。私は環境問題、私は障がい者雇用とか、私は地域のためとか、みんなそれぞれ違うと思います。自分が興味のあるテーマの中から、どんなことができるのか、ぜひ考えていただきたいと思います。

- ・これはよく子どもたちにも「ぜひ、マイ・エシカルというものを宣言してください。」と言っています。これは「小さい方がいいです」と言っています。なぜならば毎日続けることができるからです。私のマイ・エシカル宣言は、ペットボトルは買わないし、もらわない。毎日、マイボトルを持ち歩くということですが、これは毎日やっていたら習慣になりました。マイ・エシカルを良き習慣にしてほしいと思っています。「こんな小さなことで社会は変わるの」と皆さん言います。「変わります」、全員一人ひとりがやったらの話ですが。私は、できればまちで給水できる給水所がもっと増えてくるといいなと思っています。
- ・SDGsの文脈で言うと、エシカル消費というのは、直接的には12番目の目標の「つくる責任、つかう責任」というところに一番関わりがあるわけですが、フェアトレード1つ取っても、多分ほとんどの目標に全部関わっています。フェアトレードを実践することでいろいろな目標の達成に寄与することができるということです。「SDGsというのはものすごく難しく、私たちは何をしたらいいのかわからない」という方がたくさんいらっしゃるのですが、ぜひ、毎日の消費生活の中でエシカルを意識することで目標の達成に貢献してくださいと言っています。多分、エシカル消費がSDGsを達成するための私は最も身近な手段であり、最もどんな人もできる簡単な手段であると思っています。
- ・エシカル消費を用いて世界の問題、SDGsの抱えている目標を足元に引き寄せることができます。これは世界とした約束ですが、自分たちがおかれている状況あるいは地球がどんな問題を抱えているのかを見つけ出す、あるいは自分たちでやっていることを評価するただのツールに過ぎないのです。何番と何番ができていいというわけではなく、これはあくまでツール指標です。自分たちの頭で考えて、どうやったら「GOALS」は達成できるのかを考えていく、これがすごく大事だと思います。
- ・それでは、エシカル消費を実際に皆さんに伝えるときに、曖昧でわからない、どうやったら正確にエシカル消費ができるのかという質問をされることがあるので、これは1つの目安として皆さんにお伝えしているものがあります。
- ・こういった「認証ラベル」です。認証ラベルは、第三者機関がきちんとつくっている工程を確認して、問題がないかというのを消費者の代わりに見ているものですので、ある程度信用してもいいと言えるものだと思います。こういったエシカルに関連する認証ラベルは、世界で470ぐらいあると言われています。私がここに挙げたのは、日本でこれからよく目にする、あるいはもう既に手にできるようなもののラベルを挙げておきました。今年の東京オリンピック・パラリンピックを機に、こういったラベルを目にする機会がどんどん増えてくると思います。フェアトレードのラベルだったり、海のエコラベル、森林認証のラベルだったり、オーガニックな生地の認証ラベルだったり、有機

JASマークだったり、いろいろありますので、こういったラベルをお父さん、お母さんと一緒に子どもたちが買い物するときに見つけていくのもいい学びにつながると思います。

- ・このフェアトレードのラベルは、皆さんが一番よく目にするかもしれません。チョコレート、コーヒー、紅茶、スパイス、バナナなど、食品にいろいろとつけられていますけれども、この認証ラベルを持った製品を一部販売している企業は、日本でもどんどん増えてきています。これを見てもすごく有名な企業ばかりだと思いたしますが、彼らはこれから持続可能な原材料を調達していくためにもSDGsを達成するためにもフェアトレードは大事だと思ってもやっけてくださっています。
- ・あるいはものをつくっていない企業などは、こういった形で来客用のコーヒーをオーガニックとかフェアトレードに切り替えたり、株主総会のお土産をフェアトレードやエシカルの物にしたり、そういったことで対応している企業もあります。身近なところで言うと、海のエコラベルが貼られているおにぎり、このサケが持続可能な形で撮られたサケで、これはイオンのトップバリューから出ているおにぎりだったり、マクドナルドのフィレオフィッシュには、魚の海のエコラベルがついていたり、これは王子製紙が製造しているティシュペーパーですけれども、森林認証がつけられていたり、これは co-op とかローソンが出しているコーヒーには、持続可能な農園をあらわすラベルがついていたりします。いろいろなところで日常的にラベルのものは潜んでいるので見つけていただきたいと思います。
- ・これは日本の洗剤メーカーが出している洗剤ですけれども、ここでちょっとだけお話ししたいのは、パーム油、パームオイルの話です。パームオイルというのは世界的に安くて大量に採れる油ですが、いろいろな問題があります。
- ・これはマレーシアの森林を伐採して、パームヤシをプランテーション化して植えていている様子ですけれども、こういったところでその油がとれます。私たち日本人は1年間に平均5キロも消費しています。洗剤、お菓子、食べ物といろいろなものに入っています。森林伐採は、ここで暮らしている動物がいなくなる、ここで暮らしていた先住民は引っ越しをしなければいけないといろいろな問題があるので、こういったことがないようにつくられた基準があります。その基準を持ったラベルが「RSPO」です。こういったラベルを皆さん、目にする機会があると思いますので、ぜひ、子どもたちと一緒に探してもらいたいと思います。
- ・これは日本で初めてフェアトレードのラベルを取得した紙で、バナナペーパーです。これには面白いストーリーがあるので皆様にいつもご紹介しているけれども、こういうようなことが製品としてあります。皆さんも毎日使っているものを裏返して、ラベルがあるかなと見ていただきたいと思います。

- ・ここからは日本でどんなエシカル消費の動きがあるのかというお話です。日本政府あるいは自治体としても、エシカルに関する動きは非常に活発になってきていて、消費者庁などは研究会を開いて、エシカル消費の定義を決めて、国として「エシカル消費はトレンドではない。エシカル消費、エシカルの考えというのは日本の文化として、誰もが知っていて実践できる社会を実現する」というふうに話しています。そしてエシカル消費を地方創生のキーワードにするというような話もしていました。環境省もエシカル消費を基本計画の中に入れていますが、エシカル消費の検討会を開いていて、私もこの中に入れていただいていますけれども、今まで農林水産省としては生産の方ばかり考えてきたけれども、消費のサイドでエシカルな消費のことももっと考えていかなければというような話になっています。
- ・自治体の取組としては東京都がいろいろやっていますが、例えば徳島県は日本で初めて「エシカル消費条例」というものを策定しました。これは自治体が公共調達の中で優先的にエシカルなもの、持続可能なもの、フェアトレードを取り入れていくという話で、これは非常に重要で自治体が公共調達の中で、いかにどんなことができるのかというのは大きなインパクトを与えますので、とても大事だと思っています。長野県は健康長寿県としてエシカル消費の定義に「健康」まで入れて、2023年までに100%認知度を指すというような動きがあります。
- ・私たちエシカル協会としては、消費者庁と一緒に子どもたちがエシカル消費を学べるワークショップをつくっています。会場も認証ラベルある、なしの商品を並べて、その商品がどんな世界の課題と紐づけることができるのかというのを落とし込んでもらうワークショップをつくっています。これは今年中にどんな人も無料でダウンロードできて使えるようなものにしていこうと考えています。
- ・今、自治体の話をしましたが、これは市民運動の話ですが、自治体と関係があることなので皆様にお伝えしたいのですけれども、フェアトレードタウンという市民運動があります。これは単なる市民運動ではなく、国際認証を持つ世界的に広がりを持っている認証制度を持つ運動です。「フェアトレードタウン」というのは、シンプルに言うと、まちぐるみでフェアトレードを応援しようという話です。つまりそこに暮らしている市民、学校の人たち、商店、企業、自治体、市が一丸とやっていく動きで、世界では33ヶ国、2,000人以上の自治体がタウンに認定されています。実はロンドン、パリ、ローマ、ブリュッセルとか大都市もフェアトレードタウンに認定されていて、今年、東京でオリンピック・パラリンピックが行われますけれども、オリンピックのときに東京がフェアトレードタウンになっているか、なっていないか、実は世界から密かに注目されている話です。
- ・日本では2011年に熊本市が最初になりました。その後、名古屋市、神奈川県逗子市、浜

松市、札幌市、三重県いなべ市と今、6つのタウンがあります。すべて主婦とか市民の人たちが始めた動きです。市の職員の人たちと一緒にあって作り上げた活動でして、これは市長が宣言をしなければいけないとか、その市の人口に対して何%のフェアトレードのものを販売しなければいけないとか、お店がなきゃいけないとか、結構、クリアしなければいけない6つの基準があります。そのうち1つは日本独自の基準で、地方創生のためへの貢献という基準を設けました。要はタウンになったときにフェアトレードだけが盛り上がりも仕方がないので、フェアトレードだけではなくて、その地域でいろいろなことを活動している人たちがつながって、そして地域の活性化につながればいいよねという話です。

- ・逗子市の例では、「逗子チョコレート」というのを市民みんなで作って、障がいをお持ちの方とか高齢者とかも参加して、それを逗子のお土産として販売しました。これが非常に人気になって広がったという話もありますけれども、こんなような形でフェアトレードタウンというのは、これからもっと、もっと広がっていくと思われます。タウンになるとどんなことがあるのか。例えば名古屋市は環境局の方の制服がフェアトレード認証オーガニックコットンに切り替わりました。その職員の方々にお話を聞いたら、私たちはこういうような洋服を着ているということは、非常に誇りを感じるというふうな話をしてくださいました。
- ・これも名古屋市ですけれども、給食で使われるゴマがフェアトレードに切り替わりました。これもタウンになったことによって、こういったところが変わってくる、学校の調達が変わってくるというようなことも起きています。これは本当に大きなムーブメントですので、ぜひ藤沢市もフェアトレードタウンに興味がある市民の方がいらっしゃったら、こういう運動が始まっていくといいなと思っていますし、今、鎌倉市もちょっと動きがあるみたいなので、この湘南エリアが広がっていくのも素敵だなと思っています。
- ・これは実はフェアトレードタウンとつながりのあるもう1つの話ですけれども、「フェアトレード大学・フェアトレードスクール」という認定もあります。実は札幌市はタウンになったことによって2つの大学がフェアトレード大学に認定されました。これは学校で学生たちが主体的にフェアトレードを学ぶような活動をしていたり、生協でフェアトレードやエシカルのを売っていたりとか、そういうことにもなるのですけれども、これはイギリスとかの多くの大学はフェアトレード大学になっていますけれども、制服が変わっていったり、やはり学校とか自治体で大きくエシカル消費に貢献していくというのはインパクトがありますので、推進していく意義が大いにある。SDGsの貢献につながるということです。
- ・今の学校の話のつながりで言いますと、子どもたちの意識が大きく変わってきています。エシカル消費を支持している層は若い人たちが多いと冒頭に申し上げましたが、フェア

トレードに関してはもう教科書に載っていますので、若い人たちに「フェアトレードとは何?」と聞くと、ほとんど答えてくれます。むしろ大人に聞くよりもよく知っています。知っているだけではなくて、実践している子どもたちが多いです。

- ・エシカル消費に関していえば、2021年に新しく中学校の教科書が変わります。22年には高校の教科書も新しくなりますが、家庭科だけではなくて、国語、社会、公民、英語など教科横断的にエシカル消費が掲載されることが決まっています。これは今まで言われてきたエコとかグリーン購入、グリーン消費とかグリーンコンシューマとか、そういったことがエシカルに取って変わっていくという話ですけれども、当然、SDGsが教科書の中でも伝えられるようになることによって、エシカル消費はSDGsを達成するためにも、とても重要で、身近なツールですということを含めて教科書の中で伝えられることが決まっていますので、私たち大人よりもよっぽど若い人たちの方がエシカル消費を知る機会がある。それから実践していく人たちが増えてくるということで、下からどんどん引き上げられてくるということです。だから、私たち大人は、ある程度そういった子どもたちが社会に出る前に土台をつくっておかなくてはいけないというふうに思っています。
- ・今、どんなことを若い人たちがやっているのかというと、例えば神戸の高校生たちは、サッカーボールをフェアトレードのものに変更しました。また先ほどお話ししたバナナペーパーに変更しました。自分たちの卒業証書の紙を調べたら、誰がどこでどうやってつくっているのかがわかるので、できれば大事な卒業証書は誰もキズつけた紙でない方がいいというので、バナナペーパーに、先生に直談判して切り替えた高校生たちです。これは静岡の高校生たちですけれども、全国的にこういった卒業証書の紙をエシカルにするということが起きてきています。
- ・これは大学生です。大学生たちが数名のグループが、毎日、自分たちが出したごみを1年間書き出してみました。そうしたら、プラスチックがものすごく多かったということで、彼女たちが何をしたかということ、プラスチックのモノを売っている、作っている企業やスーパーに自分たちの声を伝えました。これがものすごく大事な行動だったと思います。私たちは消費者としてはどうしても買わざるを得ない。でも、モノを出したくない、だから、「つくるのをなるべくやめてください」とか、「違うものに切り替えてください」というような声をいろいろな企業に届けました。すごく大事な行動です。
- ・これは茅ヶ崎市に住む中学3年の男の子です。彼は自分の中学校の仲間たちと一緒に、茅ヶ崎市の商店街をSDGs商店街に変えていくという活動を今やっています。最初に何をやったかということ、プラスチックをなるべく使わないように商店に呼びかけたそうです。そうしたら、みんなが共感してくれて、少しずつ今、広がりが出てきているそうです。こういうようなことを高校生たちが率先してやっている。しかも若い人たちから



言われたら、大人たちはやらざるを得ないということで頑張っています。

- ・右側の高校生たちは、あるビジネスコンテストにエシカル消費のテーマで出て、優勝を勝ち取って、世界大会に行つて優勝しました。ネクタイをリメイクして学校で販売して、それを友人や同じ世代の人たちに伝えていくというような活動もやっています。あるいはプラスチックの漁網の問題を考えて、そういったリサイクルをするようなシステムを企業と一緒に考えていく高校生たちもいます。
- ・それから高校生の活動としては、こんなようなこともあります。昨年末に徳島県と消費者庁の主催で「エシカル甲子園」というものが開催されました。何と全国各地から 70 校の応募がありまして、本選に残った 12 校が出場したけれども、彼らのテーマの傾向としては、ファッションというのがすごく多かつたし、フェアトレードとかプラスチックの問題も多かつたです。こんなようなテーマを持って、みんながいかに自分の地域でエシカル消費に取り組んでいるのかという発表もして競い合いました。
- ・これは長野の子どもたちがエシカル消費の認知度を 100%にするという宣言をして、いろいろな取組を紹介してくれたり、これは徳島県の子どもたちで、地域を通じていろいろ考えたことを言ってくれたり、札幌市の高校生たちは、札幌市がタウンになったことで、もっともっと頑張っていかななくてはいけないと活動をやっていたり、これは特別支援学校の皆さんが、自分たちもできることがあると、彼女たちは竹の紙とか、竹の粉末を利用したいろいろなビジネスの展開を考えているというような活動を発表してくださいました。本当に感動しました。全国各地でそういうことが今起きているということです。
- ・最後に、今、若い人たちがどんな思いを持っているのか、アンケート調査を皆様と共有して終わりにしたいと思います。我々が今、エシカル協会としていろいろな場面でアンケート調査を行つてきております。これは、去年の 8 カ月間ぐらいで実施した 10 代から 30 代を対象に約 2,600 人の統計になります。
- ・ジェネレーションゼットと呼ばれる 10 代からミレニアル世代が入っている 30 代までの統計です。各地でアンケートをしましたが、「興味がある」と答えた人たちは半数ちよつとになりました。「実際に知っていること、経験したことがありますか」といったら、何と知っているだけではなくて、経験したことがあると答えた人が 6 割以上にのぼった。「エシカルと聞いて何をイメージしますか」といったら、やはり地球環境が多かつたわけです。エシカル商品を買ったことある、ない、これから購入したい、したくないというのを見ましたが、これまでは買ったことはないけれども、購入したいと思ってくれた人が圧倒的に多かつた。でも、買いたくないといった人はどんな理由だったのかというと、どれがそういうものなのかわからないというのと、別に理由はないということです。だから、どういったものがエシカルなのかというのをお店側も共有するべきだし、私たちも積極的に問い合わせたり、聞いたりする必要があります。それと参考にするのは認証

ラベルと答えてくれた人たちが多かったのは、私としては意外でした。それから「普段行っていることは何か」というと、若い人たちはエコバッグの使用とか、お金を使わないでもできることというのが多い。

- ・それから面白かったのは、「エシカル消費を行わずに妥協してもいいと思える点は何か」と聞いたら、「ブランド力」が一番、それから価格だった。ちょっと高くても大切に長く使える方がいいというような理由も話してくれた若い人たちが多くいたということです。つまり使い捨て、1年でサヨナラというものでなくていいということです。
- ・あとは「どこでしたいか」というと、学校とかが一番多かった。それとよく行くコンビニというのも多く答えに出ていました。
- ・これは「何が変わると一番変わるか」と聞いたら、企業のせいにするのではなく、自分たちなんだというふうに答えた若い人たちが多かったわけです。今まで意識をしてこなかったという思いも込めてなのかもしれません。
- ・それから「エシカルな商品」の産地として、東南アジアとかアフリカが多いのですが、日本も意外と多かったということで、地産地消とか伝統工芸とかも今後考えられているのかなと思いました。
- ・今、見ていただいたのは我々の統計ですけれども、世界的に見ても若い人たちの動きは変わってきている、価値観、考えが変わってきているということです。これはミレニアル世代とジェネレーションゼット1万3,416人の統計の結果です。若い人たちは企業に対して環境、気候変動、倫理観というものを非常に強く求めているという結果がここに表れています。
- ・今後、10年、20年後の消費の中心となる若い人たちの価値観が、どんどん変わってきているということは認識をしていかなくてはいけないし、そういった若い人たちが就職したいと思える企業をどうやって増やしていけばいいのだろうとか、いろいろ考えると終わりが無いのですが、私は普段の活動の中で一番交流が多いのは若い人たちです。常に私はそういった若者から怒られています。何と怒られているのかというと、「この地球をこういう状態にしたのは末吉さんのような大人ですよ。でも、末吉さんたちのような大人たちは、私たちより先に死にますよね。私たちはもっと長い間、地球に暮らしていかなければいけないから、本当に将来の地球が心配です。」というふうに言われます。「私たちは若いから余力がないけれども、どうか大人の皆さん、私たちに耳を傾けて、私たちと一緒に何ができるか考えてください」というふうに、いつもそのメッセージを言われます。これからの世界をより良いものにしていくためには、そういった世代間の価値観の違い、世代間の正義の違いといったところをどうやって乗り越えるのか、あるいは乗り越えるためにいろいろな世代がつながって、集まって会話できる場をどうやってつくっていくのがキーになってくると思っていますので、きょう、ここで聞いてく

くださった皆様もそういったつながりが生まれるような場面をつくっていただけたらと思います。

- ・最後に、このメッセージで終わりにしたいと思います。私たちはエシカル商品をどんどん買ってください、そういったものを買った方がいいですよと言っているわけではないのです。一番大事なメッセージは、「エ：影響をシ：しっかりとカル：考える」「エシカル」です。どういうことかということ、一人ひとりあるいは企業でも学校という単位でもどんな影響を及ぼしているのか、そういったことを常に自分たちの頭で考えながら行動していく。これがエシカルであるというふうに思っています。子どもたちにもいつもこれを伝えています。
- ・私はこの活動をやってきて何度も壁にぶつかって、もうやめてしまえと思ったことがたくさんあって悩んだときに、「パタゴニア」というアメリカのアウトドアのメーカーで、昔からエシカルな企業の創業者のイボン・シーナードさんという方が、私に「もし、あなたが活動をやめてしまえば、あなたは問題の一部になる。でも、もしあなたが頑張つて活動を続けていけば、あなたは解決の一部になる。人というのは何かを言ったり、思うかではなく、何をするかでその価値が決まる。」と言ってくださいました。要は行動あるのみです。アクションでしか社会を変えていくことができないと、子どもたちは、もう既にアクションを始めています。そして子どもたちが私たち大人に何を求めているのかということ、アクション・行動です。きょうはありがとうございました。〔拍手〕

## 鈴木市長

- ・ありがとうございました。
- ・それでは、残りの時間で先生のお話の感想や「理解する、自分事化として行動につなげる」といった視点から、一言ずつご発言をいただきたいと思います。

## 大津委員

- ・私はきょう、初めて「エシカル」という言葉を聞いたのですが、実は私は環境問題に少し興味があって、私は障がい者の施設に勤務していて、施設の中で環境の取組として、地球温暖化対策といったようなことを少し行っているのですが、たまたまきょうのお話を聞いて思ったのは、最近、市役所の分庁舎がオープンしまして、その1階に私どもの法人が運営する軽食喫茶店がこの4月から開店するのですが、その開店に当たって「フードロス」をどうなくせるかということは今、考えている最中で、できれば障がい者の仕事の1つとして、残された食品残さを堆肥化できないかと考えているところです。できれば将来、できた堆肥を販売する循環の仕組みができればいいなと思っているところで、たまたまきょう、お話を聞いたら、エシカルに少しあてはまる部分があるのかな

と思ひまして、大変参考になったところす。また、エシカル自体まだピンと来ていないところもありますので、何かの機会にお教へいただければと思ひます。

## 飯島委員

- ・私も「エシカル」という言葉は、資料をいただいたときに初めて知りました。調べてみたら、スピノザという方が「エチカ」という哲学書を書いていて、語源が同じだということを知りました。倫理的とか道徳的ということすけれども、ちょっと警戒感を持って語られる言葉を排除して、皆さんに伝えている姿は素晴らしいと思ひました。広がっていくためにはそういう配慮もまた必要なのではないかと思ひました。先生もマイボトルを持っているということすけれども、私もマイボトルを持って、定年退職をしましてから散歩や旅行に行くときも使っています。そういうものもエシカル消費の1つかなと、今ご指摘いただいて、私にもやれていることがあるなど少し安心しました。
- ・藤沢市も給食が地産地消であったり、パン給食だけではなく米飯給食が盛んになっている地域性に根ざした食文化を、学校の時代から子どもたちに提供して、子どもたちが大人になったときに賢い消費者になるような配慮もしていく。新しい指導要領の中で、いろいろな教科書にそういうものが載るといふのは、とても影響力があると思ひます。現在でも国語や英語の中で平和教育を行っていたり、環境教育を行っていたり、素晴らしいエッセイも掲載されておりますので、エシカルの生（ナマ）の活動ではなく、文学的な題材が入ると、先生方も教へやすいし、子どもたちにも大きな影響があると思ひて、大変期待をしながら、明日に向かって育っていく子どもたちが、むしろ私たちよりも1歩も2歩も前に進んでいっているという姿を聞かせていただいて、とても勇気づけられました。きょうはどうぞありがとうございました。

## 木原委員

- ・私は病院で働く医師ですが、身の周りには安全とか感染を配慮していく中ではどうしてもディスポのものが多く使われたりとか、そういった点では逆の方向性なのかなと思ひますのですけれども、きょうのお話を聞いて、できることからやっていくということが大事だということと、子どもたちが成長して大人になっていくわけすし、子どもから大人へつながっていくことが大事なのだろうと思ひました。ただ、いろいろな企業があり、いろいろな職業があり、周知していくことの点でどのようにすればいいのかといふところが小さい1歩からで行けばいいのかなと思ひましたし、どうなんだろうと今後考える上で思ひました。きょうはありがとうございました。

## 市村委員

- ・「エシカル」というワードについては、日ごろ購入しているアパレルメーカーがCMでも流してはいますが、購入している中で知ってはいたのですが、環境だけではなくて、作り手の配慮もしているなという漠然とした知識のみだったので、具体的な取組や背景がわかってよかったです。お話にもあったのですが、モノの一生を考えるとというところで、思い浮かんだことがあります。今は違う業種に勤めているのですが、以前は3R（リサイクル・リデュース・リユース）の仕事に携わっていたことがありまして、その中で感じたモヤモヤとした気持ちを思い出しました。日本ですと、あらゆるものを新製品が出るたびに購入し、要らなくなったものは、そういった企業に集められている。1カ所に大量に集められた、まだ使えるものですがどれも不要品となったもの。これらの中でも日本で売れないもの、必要とされていないものについては発展途上国の方に輸出されていた。一見するとまだ使えるものを安い価格で発展途上国の方々が買えるというよい面もあるかと思うのですが、日本人が要らないと思ったもの、廃棄物になるようなものも一緒に送られているということを知ったときに、発展途上国で抱えている課題について、自分の国が影響を与えている、しわを寄せているのではないかという非常にモヤモヤした気持ちで働いていたことがあります。
- ・「SDGs」というワードの認知度が低いということもあるのですが、SDGsの17の目標、また、その17の目標には169の細かい目標が設定されていると聞いています。私以外にも日ごろ生活している中で、こういったモヤモヤとした気持ちを抱えながら消費行動をしている人々もいると思うのですが、SDGsの細かく設定された目標と、人が抱えている消費に関する課題、モヤモヤとした気持ちをうまくマッチングすることによって、一人ひとりが1つの指標として意識して消費活動をしていけたらと思っています。

## 講師

- ・今、いいご指摘をいただきありがとうございます。エシカル消費には正解はなくて、1つの側面から見たらとてもいいことでも、反対から見たら、そうではなかったというような場合もあります。例えば要らないものでも送っていたという話がありましたが、洋服なんかでも着ない洋服を海外に送り続けてきていましたけれども、途上国のうち今、47カ国だったかと思いますが、古着の輸入を禁止したんです。なぜかという、その国でも洋服をつくる産業があるにもかかわらず、ただ同然で入ってくる洋服が出回ってしまうと産業をつぶすことになるということです。いろいろな側面から考えてやっていくしかないということですが、モヤモヤは私も常に矛盾との闘いでやっています。

## 平岩教育長

- ・本日はありがとうございました。私たち誰もが日々買い物をし、消費生活を営んでいるわけですが、その裏にさまざまな課題、問題があるということを改めてきょう再認識をさせていただきました。私はお話を伺いながら、スウェーデンのグretaさんのことを思い浮かべていたのですが、若い人たちにさまざまなエシカル的な行動が広がっているということを大変頼もしく思いながら、聞かせていただいております。そうしたときに大きいのは、教育の果たす役割なのかなと思ったところです。
- ・そして藤沢市におきましても、各学校ではごみの分別は当たり前のように子どもたちはやっていますし、また、家庭科ではマイバッグをつくって、プラスチック袋をもらわないようにしようということもやっていますし、今、古着を外国の方に送るのはいかがなものかというお話がありましたけれども、1つ紹介させていただきたいのは、中学校で生徒会自身が自分たちの古着、子ども服が欲しいという動きが去年、あったのですが、そのときはこちらからお願いしました。そうしたら、今年は自分たちの方から自分たちの古着が役立つのであればそれをやりたいということで、集めてくれて、それをある国の大使館を通じて送ることができました。そういうような発想が、自分たちのものがどこかで逆に生きているというような考え方を子どもたちが持ってくれるということは大変うれしく思ったところです。
- ・教育委員会も学校と連携しながら、その成長段階に応じて世界各地でどんなことが起きているのか、また、それが自分とどのような関わりが、例えば先ほどのサッカーボールの話であったり、洋服の話であったり、自分たちが口にしている食料の話であったり、さまざまあると思うのですが、どういうふうにつながっているかということをしっかり子どもたちを教育する中で、それを自分事としてとらえ、そして先ほど「行動する」という言葉がありましたけれども、身近なところから行動に移していくという子どもたちをこれからの藤沢の教育の中で育ててまいりたいと思いました。子どもたちが持続可能な将来の担い手となって、豊かで活気ある社会をつくってほしいということをお話を伺いながら感じたところです。きょうはどうもありがとうございました。

## 講師

- ・私も教育が一番大事だと思って、活動をずっとやってきています。SDGsの「誰ひとり取り残さない」というもう1つの大きなテーマがあって、Transform our world (トランスフォーム アフ ワールド) 世界を変革するという「トランスフォーム」という言葉が大事で、サナギがチョウに変わるくらい姿を変えなくては、地球は変わらないという意味を込めて、国連は世界恐慌、第二次世界大戦、そして今回、3度目として「トランスフォーム」という言葉を使ったのです。変革を起こすというのは、意識の変革でもあ

と思うので、そういう意味でも教育というのは一番大事なところだと思っておりますので、私もこういった場でお話ぐできたことを非常に嬉しく光栄に思いました。ありがとうございました。

## 鈴木市長

- ・ どうもありがとうございました。昨年も世界的にも気候変動でいろいろな災害が起きたわけですが、大量生産・大量消費の時代から自然がなくなり、それが地球温暖化になり、災害をもたらしているということにも関連しております。そうすると復興するのにかえってコストが高くなってしまふということもあるので、今、皆さんがそういったことに新たな価値観が変わってきているのかなという思いはしておりますけれども、そういった意味で皆さんができることからやっただくことが大事ではないかと思っております。私も会議のときにペットボトルを使わず、タンブラーを使用しています。またちょっと恥ずかしいのですが、ポケットにマイバッグをしのばせて、ビニール袋をもらわないうで、ポケットに入るものはポケットに入れるので、変に思われますけれども、そういう行動はしておりますけれども、まず、できることからやっっていくことは皆さんと共有したいと思っております。
- ・ それでは、予定された時間が参りましたので、これにて終了したいと思いますぐ、よろしいでしょうか。（「異議なし」の声あり）

## 鈴木市長

- ・ 事務局の方で何かありますか。

## 事務局

- ・ 「議事(2) その他」として用意した議題はありません。
- ・ 事務連絡ですが、今後の会議についても今年度と同様、なるべく教育委員会定例会の日程と合わせられるよう検討しております。日程等は決まり次第、改めてお示しいたします。また、委員の皆様で会議のテーマ等について何かありましたら、事務局までご提案いただければと思います。

## 事務局（司会）

- ・ 以上をもちまして、令和元年度第2回 総合教育会議を閉会といたします。  
(午後2時58分 閉会)

2020年（令和2年）3月18日

この会議の経過を記載し相違ないことを確認する。

藤沢市長 鈴木暉夫  印

藤沢市教育委員 飯島広美 